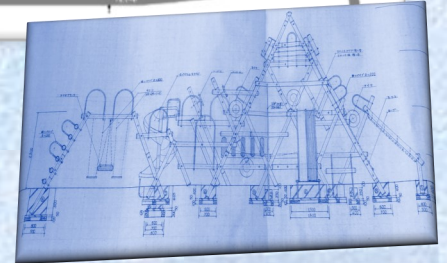


淵野辺公園・樹林広場を“想造”しよう

かぜ さとめで
 ～風っ子砦リニューアル～

淵野辺公園の樹林広場は、樹木に囲まれ、公園を訪れる人たちの憩いの場であり、週末には多くの家族連れが遊びに来る特徴的な遊具がいくつもあります。その中にあり、30年以上親しまれている大型の木製遊具「風っ子砦」は、木材の老朽化が進み、早期の更新が必要です。

そこで「風っ子砦」のリニューアルの機会に合わせて、樹林広場の今とこれからの市民の皆さんとともに考えていく場としてワークショップを開催しました。



第1回ワークショップ(WS)を開催しました!

平成30年12月9日(日)、相模原市立博物館会議室において、第1回目の「淵野辺公園・樹林広場を想造しよう～風っ子砦リニューアル～」ワークショップを開催、参加者(20名)の皆さんと話し合いました。

▷第1回ワークショップの実施内容

🎧現場の視察

まず、参加者の皆さんと一緒に現地を見て歩きました。

🎧博物館で淵野辺の歴史講習

つぎに博物館の学芸員さんから淵野辺周辺の歴史講習を受けました。

🎧グループごとに意見交換

3グループに分かれ、①「日ごろ樹林広場を利用して課題に感じていること」と②「どのような遊びや活動ができるとより利用しやすい場所になるか」の2つのテーマについて意見を話し合い、情報を共有しました。

遊具の老朽化具合や広場の様子を実感!

広場や遊具のコンセプトを考えるヒントに!

広場全体をイメージしながら遊具を考える!

既存の風っ子砦にこだわらず色々な意見を!

歴史講習



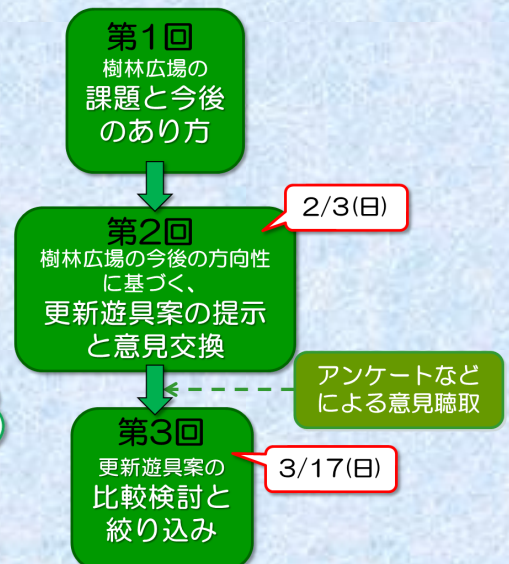
意見交換



▷ワークショップのねらい



▷ワークショップのスケジュール



リニューアルという言葉には、ただ遊具をもとの状態に戻すということではなく、より今のニーズに合わせて「生まれ変わらせたい」という意味を込めました。

▷第1回ワークショップのまとめ（第2回に向けて）

現状の課題を踏まえた上で、樹林広場については、『今ある自然の雰囲気を残したい』『年齢や世代の違い、障がいの有無によらず過ごせる場所にしたい』『子どもを見守りながら過ごせる場にしたい』などの意見が挙げられました。

さらに、遊具については、『どんな人も楽しめる』『シンプルでも自ら考え遊べる』『いろいろな動きで楽しめる』『チャレンジ性がある』『安全安心』『シンボリックで印象に残るもの』

『いまの樹林広場のイメージにあったもの』など、この他にもキーワードとなる様々な意見が寄せられました。

第2回は、これらのキーワードをとりまとめ、よりイメージできるような遊具などの事例を見ながら、参加者の皆さんと意見交換をします。



グループごとの結果発表

▷樹林広場の現況



▷ファシリテーター・篠田さやかさんのご紹介



- ・今回、参加者の皆さんのご意見をより深く、中立的な立場からお聞きし、司会進行する役割（ファシリテーター）を依頼しました。
- ・篠田さんは様々な市民参加型プロジェクトの企画・運営に関わっているプロファシリテーターであり、PITレーニングやコミュニケーション技術等についての研修講師も務めています。（オフィス・キュア代表）
/マサチューセッツ大学（心理学専攻）卒業
/桜美林大学大学院博士課程前期（老年学専攻）修了

▷テーマ①（樹林広場で問題だと思うこと）に対するご意見（まとめ）

項目	意見要旨
①広場の問題点	木が多く、森林浴や落ち葉の感触が楽しめる、自然豊かな今のままの広場が良いと思うので変える必要はない。
	子どもが走り回するには広場が狭い。
	樹木があるとはいえ、夏は日差しがあって暑くて遊べない。
	樹木が多いこともあり、広場全体のイメージが暗い。
	樹木が多いので自然があって良い反面、死角が多くなって人目につきにくいので、防犯面から考えると危険だ。
	土の地面は雨の後にぬかるんで歩きにくいので、ぬかるまない材質の圍路があると車いすやベビーカーが通りやすい。
	樹木がたくさんあるのに生かしきれていない。切株をそのまま残しておくのはひっかかって転倒する危険性もあるので、椅子やテーブル、アートなどとして活用できないか。
	落ち葉などの清掃がされておらず、野球場の周辺などと比較して手がかけられていないと感じる。管理しやすい樹木や舗装にすることも考えてはどうか。
	トイレの数が少ない。
	和式トイレは高齢者や子どもが使いづらいので洋式に変え、デザインもモダンにしてほしい。
	トイレが広場の端にあり、人の気配もわからないので、子どもを一人で行かせるのが不安だ。
	遊具の近くで子どもを見守ったり、花見などでゆっくりするのにちょうど良い場所にベンチがない。
	遊んで手が汚れた時にすぐに使える手洗い場、遠足や校外学習、介護の際に使える椅子とテーブル、雨宿りできるあずま屋などがあると使い勝手が良くなる。
	バイクや自転車の乗り入れ禁止の看板が威圧的で怖い。自転車がダメだと言われると、ベビーカーで入りにくいところもある。
樹木の名前や特徴、広場の歴史や名称の由来などを説明する看板があると、子どもの学習にもつながって良い。	
②遊具の問題点	風っ子砦が老朽化し、木がささくれているので、危険と書かれたテープがあちこちに貼られているので、子供を遊ばせるのに不安を感じる。
	木が多い広場なので風っ子砦は木をコンセプトにしているのだと思うが、一部プラスチックになっているので違和感がある。
	風っ子砦は高さがあるので落ちた時に危険ではないか。小学生以上は良いが幼児が遊ぶには怖いので、対象年齢も限られてしまう。
	高さがある運動量が多いことが風っ子砦の良さなので、それが失われてしまうとしたら残念だ。
	大型遊具の周辺にハチが発生することがあるので危ない。
	幼児用の遊具は壊れやすいが、すぐに直してもらえない。遊具のメンテナンスが行われないのは困る。
③その他 （淵野辺公園全体の 問題・WSの進め 方など）	年々遊具の数が減ってきているので寂しい感じがする。少ない遊具に子どもが集中してしまい、混雑するのも気になる。
	今ある自然を残し、自然と触れ合える公園であってほしい。
	障がいのある子どもなど、誰もが気兼ねなく訪れられる雰囲気の良い公園だと良い。
	放置自動車の問題が発生しているので、駐車場の拡大などによる対策が必要だ。
子供会などを通して、子ども達に遊具に関するアンケートをしてはどうか。	

▷テーマ②（今後の樹林広場と遊具のあり方）に対するご意見（まとめ）

項目	意見要旨
①広場の方向性	自然が味わえる今の公園は良いと思うので、樹木を残し、このままの雰囲気を保ってほしい。高さのある遊具を登ったり、将棋をさしたり、自然の中でゆったりできる環境を、今後も継続していくのが良い。
	幼児も高齢者も障がいのある人も、安全に遊んだりくつろいだりできる憩いの場になってほしい。車いすやベビーカーなどで来やすい様にバリアフリーにして、明るいイメージの広場になると良い。
	遊びたい人とくつろぎたい人など、それぞれが望む過ごし方ができるために、緩くゾーン分けができていた方が良い。小さな子どもと大きな子ども、親子連れと高齢者など、世代別にエリアが分かっていると安全で利用しやすいのではないかな。
	バリアフリーは必要だが、公園を健康づくりや歩行訓練のために使っている人もいるので、バリアフリーにしすぎない配慮も必要ではないかな。
	小さな子ども達が走り回って自由に遊び、親はそれを見守りながら情報交換ができる安心安全な交流の場になると良い。
	高齢者がウォーキングをしたりベンチで将棋をさしたりできる、交流とくつろぎの場になると良い。
	高齢者と子どもとのふれあいがある広場になると良い。
	小学生くらいの子供達が声をかけあったり、助けあいながら遊び、見知らぬ子との触れあいもできる場所になると良い。
	楽器の練習や火おこしなど、自宅ではできないことやなかなか体験できないことができる場があると良い。
	樹林広場という名前の通り、どんぐりや栗拾い等ができる木があったり、実を拾えるスペースがあると良い。
目玉になるような遊具ができることで、他の地域からも人が訪れる様になると良い。ただ、駐車場が不十分なので、近隣住民が利用できなくなるのは困る。PRすると同時に駐車場の整備も必要だ。	

▷テーマ②（今後の樹林広場と遊具のあり方）に対するご意見（まとめ）_つづき

項目	意見要旨
②遊具のあり方	子どもから高齢者までの幅広い世代の人や障がいのある子どもが、一緒に楽しみコミュニケーションできる遊具が良い。スポーツテストの様に競い合う遊具や体感型の遊具が良いのではないかと。
	子連れではない大人や散歩途中の人がストレッチするためなどに使える健康遊具的なものがあると良い。
	今の風っ子皆だと怖くて遊べない子もいるので、運動が得意な子もあまり得意でない子も、障がいがある子も楽しめる遊具にしてほしい。
	男の子は体を使う遊び、女の子はものづくりやごっこ遊びと、男女で人気のある遊びが異なるので、それぞれに魅力的な遊具があると良い。
	遊び方が決まったものだと飽きやすいので、単純な作りの遊具で子ども自身が工夫して遊びを作り出せるものがあると良い。そういう遊具は様々な感覚を養い、幅広い人が使える。
	小山などの自然のものを使った遊具があると良い。
	1つの遊具で登る、くぐる、隠れる等のいろいろな遊びができると、運動能力に関わらず楽しめるし、対象年齢の幅も広がる。
	すべり台、シーソー、壁面遊具、トランポリンなどの多種多様な遊具があると、様々な感覚を養えるし、作業療法にも使える。混雑解消のためにも遊具の数は多い方が良い。
	立派な遊具でなくて良いし、遊具の数も少なくても良いと思う。
	小学生くらいの大きな子どもが体をいっぱい動かすことができ、体づくりにつながるアスレチックの様な遊具があると良い。
	高さ以外の要素でも構わないが、高い所に登るといったチャレンジをして達成感を得られる様な遊具がほしい。小学生くらいになったら体験を通じて危険を学ぶことも大切なので、多少の危険性はあっても良いと思う。
	幼児は何をするかわからないので安全に遊べる、親が少し目を離しても安心な遊具が良い。今は小さな子どもが遊べる遊具が少ないのでもう少し増やしたり、広場の中央に遊具をまとめて周辺で大人が見守れる様にできると良いと思う。
	ハザード（遊具の設計や構造、設置方法などによる危険性）の少ない遊具が良いと思う。
	木材などの自然の素材を使用した遊具が良い。樹林広場という名称から考えても、木製の遊具が良いのではないかと。
	木製だと壊れやすいのであれば、傷だらすくに取り換えられる様に、石等の丈夫なものを軸として周りの部分のみを木製にするのはどうか。
	今の風っ子皆は淵野辺公園を代表するものになっていると思う。そういうシンボリックな遊具は、それを目的に人が訪れるし、印象深く思い出に残るので良い。
	風っ子皆を新しくするのであれば、隣の船の遊具との調和を考えるべきだ。
木製遊具だから暗いイメージになるというのはあるかもしれないが、カラフルではない方が良い。	
カラフルにしたり、花などの模様を入れると子どもの興味をひくと思う。その際、今の雰囲気や壊さない様に周囲の木との調和を考えて、色や配置を決める必要がある。	
夏の暑さと日差しを防ぐために、遊具の上に屋根があったら良い。	
③広場の整備に関する提案	防犯の面からも見通しの良い明るい広場にしたいので、照明を明るくする、垣根の剪定を定期的にする、管理のしやすい樹木にする、広場の中心に塔の様なものを建てるなどの工夫が必要だ。
	暗いイメージを払しょくするために、通路の色を明るくしたり、木を間引いて日当たりを良くしてはどうか。切株は一部残してアートにできると、アート公園の様なになると思う。
	子どもを見守りながらくつろいだり、お弁当や荷物などをおけるような椅子やテーブルがもっとたくさんあると良い。
	子どもが使いやすい洋式トイレを整備してほしい。衛生面や見通しを良くするなどの安全面にも配慮し、おむつ替えスペースも設置されていると良い。
	車椅子やベビーカーでも移動しやすい様に、広場の出入口などの段差をなくし、平らで通りやすい素材の通路を整備してほしい。
	死角ができない様に配慮しつつ、遊具をコース状に配置できると良い。
④その他 （淵野辺公園全体についての意見など）	遊具で遊ぶだけでなく、一輪車ができるような区画などがあると良いのではないかと。
	1つの公園で全てが揃ってなくても、それぞれの公園が個性を持ち、周辺の複数の公園を巡ることでいろいろな楽しみ方ができれば良い。
	淵野辺公園はスポーツ施設が充実しているが、スポーツ系の建物が建ちすぎると遊びより運動が重視されてしまうので、建物を建てるよりも公園を広げる方が良い。
	同じ種類だと落葉時期も同じになるので、様々な種類の樹木を植えて、公園内に1年を通して日陰を作ってほしい。
	かまどベンチや災害用トイレなどの防災機能がほしい。
	小学生が木やどんぐり、落ち葉などを使った遊びができるといい。
	プールに入れない小さな子ども達が遊べるような水場がほしい。
園路などの落ち葉の清掃が必要な箇所の清掃はきちんと行ってほしい。	

編集・発行（事務局）

相模原市 環境経済局 環境共生部 公園課

☎ 042-707-7022

Eメール) kouen@city.sagamihara.kanagawa.jp